

3-5. 懇話会の開催

(1) 第1回実施概要及び議事要旨

1) 実施概要

①日 時 : 平成 28 年 7 月 25 日 (月) 17:30~19:30

②会 場 : 宜野湾市農協会館 2 階 でいご

③出席者 : 石原 昌家 沖縄国際大学 名誉教授【会長】
(敬称略) 又吉 信一 宜野湾市軍用地等地主会 会長
佐喜眞 祐輝 宜野湾市軍用地等地主会 副会長
又吉 真由美 宜野湾市軍用地等地主会 事務局長
大川 正彦 普天間飛行場の跡地を考える若手の会 会長
宮城 武 普天間飛行場の跡地を考える若手の会
呉屋 勝広 ねたてのまちベースミーティング 会長
佐藤 努 ねたてのまちベースミーティング 副会長
多和田 功 宜野湾市基地政策部まち未来課 次長兼課長
丸山 昭彦 専門員(昭和株式会社)

《事務局》

塩川 浩志 宜野湾市基地政策部まち未来課 係長
下地 英輝 宜野湾市基地政策部まち未来課
石井、崎山(昭和株式会社)

④式次第 : 1. 開会
2. 報告
(1) 平成 28 年度業務の内容について(資料①、②)
3. 議題
(1) 地権者の土地活用意向調査について(資料③、④)
4. 閉会

⑤配布資料 : ・第1回普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 次第
・資料①: 平成 28 年度 関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務 業務計画書
・資料②: 平成 28 年度 懇話会予定表(案)
・資料③: 土地活用意向調査の実施にあたって
・資料④: 土地活用意向調査配布資料一式(A4 発送用封筒、説明資料、回答票)
・普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会設置要綱

2) 意見概要

事務局	・・・2. 平成28年度業務の内容について（資料①、②の説明）・・・
丸山 （専門員）	資料①の補足として、若手の会で8月予定されているテーマについて「地権者アンケートの内容」となっているが、設問内容は市や懇話会の場でアンケートの書き易さ等の意見を頂くためのものとなる。資料②について懇話会の今後の予定について意見を頂きたい。
宮城 （若手の会）	資料①P5「2）市民等」の2行目にある「市民市民」という表現はおかしいのではないか。
事務局	訂正したいと思う。
佐藤 （NB ミーティング）	資料①P6「2）市民等」に記載されている「基礎的な地固め」とは具体的にどのような内容なのか。 資料②、7月、8月の「その他の活動予定」に「土地活用意向調査の内容について、地主会役員等、若手の会から意見聴取、修正」とあるが、NB ミーティングはその中に含まれていないのか。
丸山 （専門員）	「基礎的な地固め」というのは、NB ミーティングの組織的な部分に課題がでていう事を含めた中、基本的なベースを固める必要があるため、このような文言を使用した。
佐藤 （NB ミーティング）	具体的には、メンバーが少ないという事か。
丸山 （専門員）	そうではなく、組織として課題が出ているという状況を踏まえた中でという事である。
佐藤 （NB ミーティング）	活動内容について問題があるという事か。組織を見直すという事か。
丸山 （専門員）	見直すという事ではなく、組織に対して様々な課題が存在すると伺っていた。活動内容ではなく、組織あるいはNB ミーティングのポジションに少し疑問がある方もいると伺っている中、組織そのもののベースという意味合いで「地固め」という表現をした。 資料②については、NB ミーティングだけで決めていく方法もあるし、このような場で意見交換しながら方向性を探るという事もできていると考えている。
石原 （沖縄国際大学 名誉教授）	組織メンバーの年齢構成についてはどう考えているのか。

丸 山 (専 門 員)	若手の会は結成して 14 年になる。今まで通りで良いのかどうか。返還に向けて現実的に目の前にあるので、今一度考えてみる必要はあるのではないかと。 2 点目の「土地活用意向調査の内容について、地主会役員等、若手の会から意見聴取、修正」について、NB ミーティングメンバーの方々がこの場に参加しているため、この場でご意見を頂くことになる。若手の会の皆様には、地権者として高齢者の方々が分かりやすいアンケートの仕様をチェックする機会を頂くという趣旨である。内容については懇話会の中でご意見を頂き、最終的には市で決定し、アンケートを実施する事になる。内容の議論、意見等はこの場で行う。様々なご意見を頂いた上で事務局が持ち帰り、アンケート実施前に改めて案としてご説明した後、最終決定し進めていきたいと思う。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	字別意見交換会が今年度の 2 月頃に行われるが、昨年若手の会で共同利用の発表があり、非常に地主の方も喜ばれていた。今年度はどうするのか。
丸 山 (専 門 員)	若手の会からはすでに提案を頂いており、今回の字別意見交換会についても若手の会として発表したいとご意向を頂いている。但し、今回の土地活用意向調査結果を見てから若手の会として外部に発信する内容は決めていきたいとの事である。というのも、今年の土地活用意向調査結果について特に共同利用が多い場合は、昨年の若手の会での共同利用の考え方をもう少し進めて、新しいテーマではなく同じテーマでやっていきたいという意見もあったためである。
又 吉 (地 主 会 会 長)	地権者に対してアンケートの説明を行う必要があるのでは。時期的に可能かどうか分からないが、字別意見交換会で意向調査の重要性を説明すれば回収率が上がるのではないかと。
石 原 (沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)	以前 DVD について意見を出し、4 月 11 日に大学でさらに意見を出し合った。その DVD は完成したのか。
事 務 局	今ご意見を頂いた内容については、共同調査事業のプロモーションビデオの事だと思うが、昨年度北側エリアプロモーションビデオを作製、完成している。現在、県と調整しながらホームページにアップできるよう進めているところである。
石 原 (沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)	又吉委員のご意見と今の話を結び付けて、若手の会が字別意見交換会で説明する際に、その DVD を見せる事はできないか。
事 務 局	可能である。
石 原 (沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)	それならば、アンケートを実施するにあたってイメージが沸くため、答えやすくなるのではないかと思います。

丸 山 (専 門 員)	それでは次の議題に入りたいと思う。 事務局からの説明後、地権者意向調査の資料の内容、仕様についてご意見等頂ければと思う。
事 務 局	・・・3. 地権者の土地活用意向調査について（資料③、④の説明）・・・
丸 山 (専 門 員)	まず、アンケートの内容についてご意見頂き、次に記入のしやすさ、最後に回収率を上げるための取組みの3点に分けてご意見を頂ければと思う。その前に、上江洲先生から本日のアンケート内容に対してメモを頂いているため、事務局から補足説明を行わせて頂きたい。
事 務 局	アンケートの内容について、「今までより見やすくなった」、「設問の意図を記載したというところはよいのではないか。ただ今後可能であれば、アンケートの活用方法で跡地利用計画の策定の為の基礎情報として大変重要である。」というご意見、また、「このアンケートは〇〇のみに使用されます。目的以外には使用しません」「個人を特定するものでない」「個人を識別できない」といった注意書きを入れたほうがなお良いのでは、というご意見を頂いている。 また、アンケート設問7で「③どちらでもない」は「⑥わからない」と識別できるのか。設問8の「⑥広域防災機能をはたすまちづくり」も他の選択肢と同様、説明書きを足すと地権者の方々はイメージしやすくなるのでは。最後に、設問9は長く少し分かりにくいいため、シンプルにした方が良いのでは、というご意見もあった。上江洲先生からの見解について、現時点では以上である。
又 吉 (地 主 会 会 長)	過去、指摘を受けている意見を改善し、よくまとめていると思うが、数字、カタカナ、アルファベットの表現方法を統一した方が高齢者の方々には分かりやすいのではないか。
事 務 局	ご指摘の通り、本日の資料では設問3のみ選択肢がアルファベットである。理由としては、設問5の選択肢が数字であるため、「①－b」や「①－c」のように、数字とアルファベットを組合せないと、回答する際に混乱するのではないかと考えたため、設問3のみアルファベットの選択肢として、本日提示させて頂いた。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	カタカナを使えば良いのでは。カタカナとアルファベットでは、地主の皆様はどちらが使いやすいと思われるか。
又 吉 (地 主 会 会 長)	カタカナが良いと思う。
事 務 局	設問3について、カタカナを使用する形で修正していきたいと思う。
石 原 (沖 縄 国 際 大 学)	アンケートの表紙に「地権者の皆様」とあるが、「地主の皆様」にしてはどうか。

名 誉 教 授)	
丸 山 (専 門 員)	ご意見頂いた通り、地権者という言葉は専門用語になる。地権者という表現について、皆様はどうお考えか。
石 原 (沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)	私達は懇話会に参加しているので違和感はないが、参加した事がない人にとっては、なじみがないかもしれない。
丸 山 (専 門 員)	地主という表現に変更する形で修正したい。
石 原 (沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)	アンケート調査票P4設問8の「⑦平和希求のシンボルとなるまちづくり」について、一般的な「恒久平和」という表現に変更する方が分かりやすくなるのでは。
丸 山 (専 門 員)	平和希求という表現の出展はどこか。
事 務 局	21世紀ビジョン及び広域構想で使用している表現を採用している。
丸 山 (専 門 員)	ただいまのご意見について、県市共同調査の部分における文言の統一という問題もあるため、調整させて頂きたい。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	設問8の⑥と⑦は文言を追加するなど工夫が必要であると思う。
佐 藤 (NB ミーティング)	設問5について、任意か全てかが曖昧ではないか。複数筆を所有している場合、全部将来の使い道を記入頂きたいなのか、あるいは将来の使い道が決まっている土地のみ記入頂きたいのか。また、解答欄が横長で1列であるが、回答する数の問題もあるが枠を分けたほうが良いのでは。 次に、設問4の解答欄について、「番号」ではなく「記号」ではないか。
宮 城 (若 手 の 会)	少ない筆数ならば、すぐ答えられるかもしれないが、筆数が多い方は大変と思う。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	字も異なった土地を複数持っている場合、回答が難しいのではないかと。できるだけ設問は優しく分かりやすく、という事が基本にあるが、この設問については聞きたい部分である。我々も記入例を示しているが、回答方法について悩んでいる。
丸 山 (専 門 員)	「現状ではわからない」「未定」という選択肢もあったほうがよいのでは。
石 原 (沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)	アンケートの設問3に、市内の集落を全て記載した地図を入れたほうが分かりやすいと思う。

丸 山 (専 門 員)	設問5について、複数筆所有の場合は上位何筆までという表現が良いのか、それとも全て記入してもらったほうが良いのか、どちらか。
佐 藤 (NB ミーティング)	回答結果から何を求めるのかという所であると思う。回答して頂いた方の何割が住宅を建てる等を把握したいのであれば、「出来るだけすべての土地に対してお書き下さい」という方が、目的が達成すると思う。ただ、負担が大きくなるため「分かる範囲でお書き下さい」という言い方もある。数を限定する必要はないと思う。あと、設問に「複数回答可」という表現が記載されているが、この設問の趣旨からすると、複数回答という表現ではないと思うので表現を検討した方が良いと思う。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	先ほどの「複数回答」という表現については修正したい。
又 吉 (地 主 会 会 長)	設問3の「各字名」について、「地番」という表現の方が分かりやすい。
佐 喜 眞 (地 主 会 副 会 長)	「軍用地が所在する字」という表現にしてはどうか。
丸 山 (専 門 員)	設問5については、先程ご指摘頂いた箇所を工夫し、設問3については「軍用地が所在する」という表記に修正したい。
佐 藤 (NB ミーティング)	設問4で、面積を聞く意図を記載する事が必要では。
又 吉 (事 務 局 長)	設問5も、字ごとで把握したい意図が必要では。
丸 山 (専 門 員)	設問6、7は、注釈あるいは説明を追加する等工夫させて頂きたい。 次回の懇話会は8/31であるため、それまでにご意見等頂ければ対応させて頂きたいと思う。説明資料の中間とりまとめの内容については、以前から開催されている説明会の内容を改定し、記載している。
佐 藤 (NB ミーティング)	8ページの重要遺跡資源について、凡例が抜けている。9、10ページの各パターンと説明が小さすぎて見づらい。
丸 山 (専 門 員)	今ご指摘頂いた箇所については、修正したい。
宮 城 (若 手 の 会)	県市共同調査のパンフレットを同封してはどうか。重量の問題があるのか。
佐 藤 (NB ミーティング)	同封してもおそらく読まない。

又 (地主会会長)	吉	アンケート調査票と説明資料を別綴じにして頂きたい。そうしないと、あまりにも文字が多すぎて読まなくなると思う。
丸 (専門員)	山	分けたいと思う。 続いて回収率アップのための取組みについて、実際にアンケートを実施する前に説明会を開催する事により回収率が上がるのではというご意見を頂いたが、すぐに手配する事はできないと思うが、いかがか。
又 (地主会会長)	吉	問題ない。
丸 (専門員)	山	この件に関しては、事務局で検討させて頂ければと思う。 今の件は、回収率アップのための、アンケート実施前の取組みに対するご意見である。次は、アンケート実施後の回収率が思わしくない場合に督促状を発送（実際には督促状ではなく礼状という形を取るが）する等、何かアイデアがあればご意見頂きたいと思うがどうか。
又 (地主会会長)	吉	回収率が悪いようであれば、再度地主会で各会員・各支部に電話で呼びかけをしてくださいと、とお声掛けは可能かと思う。
丸 (専門員)	山	非常に今のご発言はありがたく思う。
石 (沖縄国際大学 名誉教授)	原	一般的に郵送方というのは、大体 30%ぐらいと言われている。それに今の話を付け加えたら、もしかしたら 50%の伸び率も考えられる。
又 (地主会会長)	吉	今の時期、そういう地権者が、まだ先も見えないとかがある。読まないでゴミ箱に捨てる人も居る。だからそういう場合は、丁寧に説明して理解が得られるような喚起・啓蒙が必要なる。
丸 (専門員)	山	貴重なご意見ありがとうございました。次回懇話会までに若手の会の定例会及び自主会で意見を頂き、本日のご意見を含めた中で最終的な資料として提示したいと思う。 内容等については、8月10日（水）を目途に頂ければ最終案に盛り込む事が可能であるため、FAXあるいは直接事務局への連絡頂いても構わない。出来るだけ皆様のご意見を受けた形のアンケートにしたいと考えているため、ご協力お願いしたい。

(2) 第2回実施概要及び議事要旨

1) 実施概要

①日 時 : 平成28年8月31日(水) 17:30~19:30

②会 場 : 宜野湾市農協会館2階 でいご

③出席者 : 石原 昌家 沖縄国際大学 名誉教授【会長】
(敬称略) 上江洲 純子 沖縄国際大学 准教授【副会長】
又吉 信一 宜野湾市軍用地等地主会 会長
又吉 真由美 宜野湾市軍用地等地主会 事務局長
呉屋 力 普天間飛行場の跡地を考える若手の会 副会長
富川 盛光 普天間飛行場の跡地を考える若手の会
宮城 武 普天間飛行場の跡地を考える若手の会
呉屋 勝広 ねたてのまちベースミーティング 会長
佐藤 努 ねたてのまちベースミーティング 副会長
多和田 功 宜野湾市基地政策部まち未来課 次長兼課長
丸山 昭彦 専門員(昭和株式会社)

《事務局》

塩川 浩志 宜野湾市基地政策部まち未来課 係長
下地 英輝 宜野湾市基地政策部まち未来課
石井、崎山(昭和株式会社)

④式次第 : 1. 開会
2. 報告
(1) 第1回懇話会での意見(資料①)
(2) 土地活用意向調査資料に関する各会からの意見(資料②)
3. 議題
(1) 地権者の土地活用意向調査について(資料③)
4. 閉会

⑤配布資料 : ・第2回普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 次第
・資料①: 第1回懇話会での意見
・資料②: 土地活用意向調査資料に関する各会からの意見
・資料③: 土地活用意向調査配布資料一式
(A4発送用封筒、調査票、説明資料、回答ハガキ)

2) 意見概要

事務局	・・・地権者の土地活用意向調査について（資料③、④の説明）・・・
丸山 （専門員）	封筒と調査票について、分けてご意見を頂ければと思う。封筒についてご意見があればお願いしたい。
石原 （沖縄国際大学 名誉教授）	「重要」という文字に枠をつけるのはどうか。 また、「あなたのご意見が必要となりますので」という表現は押し付けがましく聞こえるため、「あなたのご意見を最大限に反映するために」または「最大限に生かしたいので」という表現ではどうか。
丸山 （専門員）	例えば「計画作りにはあなたのご意見が必要となりますので」と主語があれば、違和感はないのかもしれない。長くなっても入れた方がよいのでは。事務局としてはどうか。
事務局	頂いたご意見を参考にしながら修正したい。
丸山 （専門員）	封筒については以上でよろしいか。次にアンケート調査票本体について、ご意見があればお願いしたい。
呉屋 （若手の会）	P4「料金後納」と書くとややこしくなる。「郵便局の手続き上…」とするが年配の方も分かりやすい。 また、P8「調査票」の下に、「ハガキを手元にご準備下さい」と記載したほうがよいのではないか。
富川 （若手の会）	P5 設問6の回答は⑥となっているが、P6の回答ハガキの書き方の所では、⑤となっている。記入ミスと思うが。 次に、設問6は複数回答可能なのか。またクロス集計は行うのか。
丸山 （専門員）	複数回答であり、クロス集計は行う予定である。
又吉 （地主会会長）	設問6について、「県や市に売りたい。（道路・学校用地として）」とあるが、道路・学校用地だけではなく、公園も入れた方がよいのでは。限定する必要があるのかお聞きしたい。
事務局	現設問では「道路と学校用地」に限定されているため、「公園等」も表記するように修正したい。
丸山 （専門員）	先程ご意見のあった、設問6の複数回答に関する件についてはどうか。
事務局	複数回答を前提で記載しているため、「複数回答可」と設問に加筆したい。

上 江 洲 (沖縄国際大学准教授)	記入例に説明書きを赤で「何筆〇㎡」と合算して記入してくださいと書くのはどうか。設問5がないと設問6の意味がない。設問5については、「大まかな面積を把握するため・・・」ではなく、「設問6と合わせて地主の方全体が所有する面積を知るために設問を設けている」と記載したほうがよいのでは。 また、設問6の「⑦その他」は何を想定しているのか。
丸 山 (専 門 員)	事務局で、若手の会の時に「⑦その他」が設けられた経緯を把握しているか。
又 吉 (事 務 局 長)	売却してもよいが売却先を決めていない方のために、その他を追加したほうが良いのではという話であった。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	資料②P2 若手の会意見交換会の中に、その経緯が記載されている。
丸 山 (専 門 員)	設問6の「⑦その他」は必要か。
又 吉 (地 主 会 会 長)	「その他」は削除した方が良い。
丸 山 (専 門 員)	今の意見では、「その他」は紛らわしいため削除するにしても、売り先の区分を行うという意味で、設問6「④、⑤」の次に「売り先を決めていない」という選択肢を入れるかどうか。
又 吉 (地 主 会 会 長)	現時点で公共用地に売りたいのか、民間企業に売りたいのか分かれれば、それでよいのでは。混乱を招かないようにするのがよい。
丸 山 (専 門 員)	「⑦その他」は不要でよいか。
石 原 (沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)	設問6の回答事例について、「半分」が2つされているため、1つは3分の2、あと1つを3分の1にした方がよいのでは。
佐 藤 (NB ミーティング)	分析の精度を高めるため、どのくらいのボリュームの土地を住宅として使いたいか、あるいは貸したいのか、大まかなボリュームで掴むのであれば、全体を10とした中で、8や15になる場合が出てくると思う。例えば100㎡の土地を持っているが、間違えて150㎡分書いてしまった場合や50㎡分しか書いていない場合が出てくる。そうなると分析の精度が落ちてしまう。但し書きで「全体が10になるように」あるいは「全体になるように」と記載したほうがよいのでは。 次に、「代わりの方によるご記入をお願いします」と書かれているが、設問1と

	2は代理の方の年齢、住まいを答えるのか、それとも地主本人なのか確実にした方がよい。 設問3の配置方針図について「良い・悪い」しか聞いていない。それでは評価にならない。本来は「どこが良い、悪い」を書ける、もしくは選択できる事が無いといけないのでは。 設問4について、1つ回答するのであれば表現を「特に重要だと思うこと…」ではなく「最も重要なこと…」が良いと思う。
丸 山 (専 門 員)	設問1、2については、事務局の意図としては代理で書くので地権者の方の年齢、住まいを回答頂きたいという事と思うが、注意書きを入れたほうが良いか。
事 務 局	文言は考えさせて頂くとして、主旨としては今頂いたご意見を反映したいと思う。
丸 山 (専 門 員)	続いて、設問4の文言について「特に…」を「最も…」に変更するという事で良いと思う。 設問3については県市共同調査の動きもあるため、本日はご意見を頂くのみで留めておいた方が良いか。
事 務 局	今回地権者の方々に対して、簡単な形で回収率を上げるため、という事もあり「良い・悪い」のみで設問を作成した。今後計画が具体化する中で、より具体的な内容で聞ければと考えている。
佐 藤 (NB ミーティング)	基本方針は固定されているようなので、それに対し「良い、悪い」だけで良いのか、が疑問である。地主の方がどういう所を評価しているのか、というポイントを把握できればより良いと思った。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	跡地利用計画については、県と市の共同調査で行っている内容を今回のアンケートで確認できればと思い、盛り込んだ。入れ込んでいる内容になる。県市共同調査についてはこれから事務局案を整理して作り込んでいくため、パブリックコメント等を開催して、その時に少し詳しく聞ければと思う。
佐 藤 (NB ミーティング)	問題なのは、資料の半分以上が配置方針図に関連する内容のため、「良い、悪い」だけで良いのか。
宮 城 (若 手 の 会)	過去のアンケートでは、「現時点の考え方をお聞きします」として、中部都市圏の新たな発展、宜野湾市の新しい都市像を実現、地権者の共同利用による土地活用など、具体的な質問があったが、今回はシンプルにしたという事で良いか。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	過去に3回平成9年、15年、23年にアンケートを行っている。平成9年と平成15年は70%の回収率だったが、23年は30%まで回収率が落ち込んでいる。

事 務 局	アンケート調査票の 3 と 4 を組み合わせてクロス集計する事により、良い所、悪い所の分析ができるのではと思うが、どうか。
丸 山 (専 門 員)	クロス集計はできるが、拡大解釈になると思う。答えが地主の方のポイントとして押さえられているかどうかは、少し疑問がある。
富 川 (若 手 の 会)	今回はシンプルな回答にしたいという事であるため、これで良いと思うが、中間取りまとめが策定された後、次のアンケートにつなげるためには設問 3 と設問 4 が重要な部分であると思う。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	今年度は中間取りまとめの見直しを進め、次年度には素案という形でまとめるため、その段階でパブリックコメント等を盛り込む予定としている。その時には地主だけではなく、市民もしくは県民まで含めて考えている。
上 江 洲 (沖 縄 国 際 大 学 准 教 授)	P3～5 の本文内で「参考資料」という言葉がでてくるが、せっかく参考資料の色を変えているため、参考資料の文字も目立たせたほうがよいのでは。 また、P5 の設問 7 「字別意見交換会」の質問はなぜ聞くのか。
事 務 局	今年 2 月に開催した字別意見交換会で土地の共同利用について説明を行ったが、その結果を踏まえて土地の共同利用に関する意向が分かるのではと考えている。 また、字別意見交換会を計 5 回行い 100 名強の方に参加頂いている。次年度以降も継続して実施していく事項だと考えており、事務局として周知方法が十分だったのかどうかという事も把握したく、設問 7 を設けている。
上 江 洲 (沖 縄 国 際 大 学 准 教 授)	字別意見交換会の出席率を上げるため参加できる日を知りたいのかなと思い、そのためには平日や休日にマルを付けて頂く方法が良いと思った。共同利用の意向がどれだけ反映されているのかが第一の目的ならば、設問 7 は必要になるという事です。
丸 山 (専 門 員)	共同利用の説明を字別意見交換会で「聞いている、聞いてない」により、回答に差が出るのかどうか、という狙いがあると思う。 また、先程 P5 に「大まかな面積を把握するため…」に関する意見があったが、この注釈は必要か。
石 原 (沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)	「大まか」と言わないと、回答してくれないのかなと思う。
宮 城 (若 手 の 会)	若手の会定例会でも発言したが、土地料明細を見ると分かりやすい。
丸 山 (専 門 員)	「あなたの土地を大まかに把握するため」や「あなたの」があればまた違うのか。

呉 屋 (若 手 の 会)	住宅用地がどれくらい必要なのか、共同利用がどれ位出てくるのかを把握したい訳であるから、「大まかな…」と書かなくてはいけないという事ですね。
丸 山 (専 門 員)	「はっきり書く」よりも「大まかな」というニュアンスがよいと思うが。
上 江 洲 (沖 縄 国 際 大 学 准 教 授)	それでいいと思う。設問 5 をスルーして設問 6 を回答する人を出さないために、設問 5 に「土地活用を行う面積の割合が知りたいので、設問 5 が必要」という事が分かる事を書くと、設問 5 を記入せず設問 6 を回答する事が無くなるのでは。面積を把握するためだけに、自分の土地を合算するのは手間であるため、「大まか」という表現も大事と思う。
富 川 (若 手 の 会)	この設問方法では「自分の面積を知られたくない」と思う人もいるかもしれない。そのため、「設問 6 のために聞いている」「面積は大まかでよい」という事が分かる表現がよいと思う。
呉 屋 (若 手 の 会)	土地明細書は地主会から出ていると思うが、地主会に入会していない方はどうなっているのか。
又 吉 (地 主 会 会 長)	防衛から全地権者に送付されている。
呉 屋 (若 手 の 会)	設問 5 に、「土地明細書をご参照ください」と記載してはどうか。
丸 山 (専 門 員)	文章で記載した時に、きつくないか。「明細書をご参照頂き大まかな面積をご記入下さい」と書いたときに、違う意味で捉えられてしまわないか。
事 務 局	いずれにせよ、設問 5 の「大まかな面積を把握するため、…」の部分は修正したいと思う。また、本文 P3～P5 の「参考資料」の文字も目立たせたいと思う。
石 原 (沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)	締切日の「平成 28 年」の部分に西暦も併記したほうがよいのでは。
丸 山 (専 門 員)	次に移らせて頂きたい。ハガキに関してご意見はございますか。
呉 屋 (若 手 の 会)	本当は、自由回答が一番欲しかった。スペースの関係上無理と思うが。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	設問 6 の文字をもう少し大きくしたほうが良い。

丸 山 (専 門 員)	設問 6 は文字を大きく、見やすく修正できればと思う。 最後に、参考資料に進みたい。内容は本メンバーの方は熟知されていると思うが、一般の地権者にとって、字別意見交換会に参加された方と参加されていない方がいらっしゃる中、内容的には難しいと思われるがこれ位は情報がないと伝わらないと思い、検討した結果になる。 また、送付されたとしても見ない方も多いのではと考えられる。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	確かに、アンケート設問 3 で記載されている「参考資料 P7 参照」以外は見ないかもしれない。
上 江 洲 (沖縄国際大学准教授)	参考資料 P11 の「2. 土地活用手法の一つとして」で、アンケート調査票に記載されている順序と土地活用意向の並びが異なるため、合わせたほうが分かりやすいのでは。
石 原 (沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)	前回ご提案した、市全体の写真を掲載すれば地主としては当時の風景を思い出しながら答えて頂けるのではと思う。また、非常によい資料になると思う。
呉 屋 (若 手 の 会)	P11 左下のイラストについて、面積の違いを文字で書かないのに短冊換地で面積の違いをあえて表現する必要はあるのか。
事 務 局	皆さんの所有する土地面積が同一ではないことから、共同利用における各人の面積の差異も見て分かるようにするため、このイラストを使用した。
丸 山 (専 門 員)	本日頂いたご意見を基に修正し、市と最終調整した後に発送する事でよいか。
一 同	はい。
上 江 洲 (沖縄国際大学准教授)	アンケート記入のための説明会はどのような方法で行うのか。皆を一斉に集めて行うのか、確定申告のような個別方式なのか。一番答えて頂きたい設問 5 と 6 を全体で説明する場合と、直接説明する場合とでは印象が変わるのでは。個別方式の場合は人数が必要となるが、参加しやすいのではと思った。
宮 城 (若 手 の 会)	今の話は、アンケート調査票を発送した後で開催するという事か。
上 江 洲 (沖縄国際大学准教授)	はい。内容が分からないあるいは補助等必要な人は、説明しながらその場で記入して頂くようなイメージである。
丸 山 (専 門 員)	具体的な方法はこれから調整していく事になると思うが参考にさせて頂きたい。

宮 城 (若 手 の 会)	確定申告方式にする場合、2～3 週間位説明会の期間を設けた方が良いのでは。
呉 屋 (若 手 の 会)	発送は9月末頃予定となっているが、回収の締切は決まっているのか。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	9 月末に発送し、10 月中旬から下旬を回収期間と考えているが未定である。説明会についても、10 月頃から全体方式で開催する事を考えていたが、今のご意見を踏まえ方向性等について検討させて頂きたい。
又 吉 (地 主 会 会 長)	以前公民館等で行った事があるが、1 日に 3、4 名程しか訪れなかった。平成9 年では 70%の回収率となっているが、当時はあと 7、8 年で返還されるという、目の前に返還が迫っている状況であったため、役員を総動員して回収した。それから 17 年、18 年経過したが状況は当時と変わっていない。どうせ帰ってこないという考え方では回収率が上がらない。特に沖縄の人は目の前にならないとなかなか動かない県民性がある。
呉 屋 (若 手 の 会)	瑞慶覧で土地意向に関する個人面談の出席率はどの程度であったか。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	80%程度である。
呉 屋 (若 手 の 会)	普天間で個人面談会を行っても出席率は上がらないか。タイトルを個人面談とした場合、関心を持つ方も多いのでは。
又 吉 (地 主 会 会 長)	対応するにあたっての費用も時間も相当かかると思うが。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	アンケート回答となると、個別で行うと個人が特定されるため、よけいに嫌がられる可能性もあるため、どちらが良いとは一概に言いづらい所もある。
丸 山 (専 門 員)	本日頂いたご意見を基に、アンケート修正等行いたい。11 月に先進地視察を予定していますので、先進地の概要を次回懇話会の場でご説明したい。
事 務 局	懇話会日程は未定のため、皆様のご都合の良い日をご相談させて頂ければと思う。

(3) 第3回実施概要及び議事要旨

1) 実施概要

①日 時 : 平成 28 年 12 月 5 日 (月) 17:30~19:30

②会 場 : 宜野湾市農協会館 2 階 蘭の間

③出席者 : 石原 昌家 沖縄国際大学 名誉教授【会長】
(敬称略) 上江洲 純子 沖縄国際大学 准教授【副会長】
又吉 信一 宜野湾市軍用地等地主会 会長
佐喜眞 祐輝 宜野湾市軍用地等地主会 副会長
又吉 真由美 宜野湾市軍用地等地主会 事務局長
大川 正彦 普天間飛行場の跡地を考える若手の会 会長
富川 盛光 普天間飛行場の跡地を考える若手の会
宮城 武 普天間飛行場の跡地を考える若手の会
呉屋 勝広 ねたてのまちベースミーティング 会長
佐藤 努 ねたてのまちベースミーティング 副会長
多和田 功 宜野湾市基地政策部まち未来課 次長兼課長
丸山 昭彦 専門員 (昭和株式会社)

《事務局》

塩川 浩志 宜野湾市基地政策部まち未来課 係長
下地 英輝 宜野湾市基地政策部まち未来課
石井、崎山 (昭和株式会社)

④式次第 : 1. 開会
2. 報告
(1) 第2回懇話会での意見 (参考資料①)
(2) 先進地視察会の結果報告 (資料①)
(3) 地権者の土地活用意向調査結果について (資料②)
3. 議題
(1) 若手の会・NB ミーティングの抱える課題について (資料③)
4. 閉会

⑤配布資料 : ・第3回普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 次第
・資料①: 先進地視察会の概要
・資料②: 土地活用意向調査結果 (速報)
・資料③: 若手の会・NB ミーティングの抱える課題
・参考資料①: 第2回普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 議事録

2) 意見概要

事務局	・・・先進地視察会の結果報告（資料①の説明）・・・
丸山 （専門員）	視察に参加された方から感想を頂きたい。その後に、ご質問等があれば参加された方が事務局からお答え頂きたい。
大川 （若手の会会長）	仙台駅東地区は戦後復興から半世紀続くまちづくりである。また、仙台駅西エリアは戦争で大きな被害を受け建物の倒壊、焼失があったため、西口の方が開発しやすかったと伺った。東口は、何度かに分けて施行された区画整理地区であり、戦後復興という事で沖縄にも共通している事と感じた。実際に事務局長に約 1 時間半まちを案内して頂いた。戦後復興の面影は感じられなく、多くのお寺が残されていた。また、X（エックス）橋など素晴らしい歴史が残る橋があるので、今からでも残していきたいという意向や動きもある。しかし、この動きはまちが出来る前に行うべきではないかと感じた。<u>エリアマネジメント協議会とは住民感情が爆発しそうな時に、意向醸成、合意形成の必要性の課題から設立した組織だと感じた。我々も今から合意形成を充分に進めていかなければ、歴史が残らないという事になってしまうと感じた。</u> 増田先生の合同勉強会では、エリアマネジメントにおける住民、地権者、コミュニティの関係を学ぶ事ができた。また、防災のまちづくりという事から防災拠点についても話があり、<u>普天間も防災拠点公園を掲げている事から、地域防災マップ（基地以外の周りの地域防災マップはある）を作り、跡地の上に防災拠点の公園を作るときは活断層がないか、公園の上に重ねあわせて早めに作成した方がよいとアドバイスを受けた。現実、基地内の調査が進んでいない中でこの辺りが出来ない事が普天間の課題なのか</u>と思い、今後防災公園を考えていかなければいけないと思った。今後まちづくりを考える為の良い視察になった。
宮城 （若手の会）	日和山公園は、東日本大震災の避難場所であり、標高が 56m となり海の方も見渡せ、風光明媚な所だった。町からも近くて集まりやすい事もあり避難場所になっている。次に訪れた場所は防潮堤であり、7.2m の防潮堤を視察した。防波堤、防潮堤、高盛道路で津波を弱めるという 3 段構えになっており、いくら高く立ててもそれを超えるような想定外の津波が 1000 年に 1 回発生する可能性があるという事で、<u>自然との闘いは簡単ではないと感じた。</u>佐須地区は、海拔 25m で高い場所ではないという印象を受けた。住民は地盤が固いところを希望し、石山のような土地に、切土でその上に家を建てる計画とお聞きした。移転地の場所は行政が決めるのではなく、住民も候補地を探し決めた場所という事であった。 また、仙台駅東側は昔ながらの町屋が多く特徴のあるまちだった。仙台駅第二地区が今回の視察の場所で、面積は 45.3ha である。現在は清算期間で、平成 32 年度で終了と言う形で土地区画整理事業自体はほぼ終わっている。エリアマネジメ

	ント協議会事務局長から、住民をまとめるのも大変だという事や団結は大切という事を伺った。
呉 屋 (N B ミーティング 会 長)	日和山公園では震災時の写真と復興後の写真を看板で拝見し、変化の大きさに感心した。バス移動の際の景色からは被災の傷跡が残されていたように見受けられた。また、島が約 200 点在する地域があり、津波来襲の際、島によって被害の大きさは様々で、島々が防波堤の役割をして波が弱くなった事も伺えた。 エリアマネジメントのまち歩きで注目した点は、道幅が大きく取られており、自転車道、歩道、車道が分けられていた。エリアマネジメントで合意形成する間に色々な地権者とのトラブルを如何にまとめられるか、まとめるためにコミュニケーションが必要となり様々な祭りやフリーマーケットを行っており、その中から合意形成に向けて地権者との話し合いが進んでいったのかと思った。周辺市街地のまちづくりとして良い勉強になった。
丸 山 (専 門 員)	参加された 3 人の方から感想を頂いた。参加されてない方は概要で申し訳ないが、何かお聞きしたい事はないか。
又 吉 (地 主 会 会 長)	エリアマネジメント協議会の構成を教えてください。
事 務 局	エリアマネジメント協議会の発足の経緯というのは、土地区画整理事業を行っているエリアの事業終盤の段階でまちづくり懇話会が出来上がった事が発端である。その懇話会では区画整理地区のまちの課題や、これからのまちづくりとしてどういう事を進めていけばよいかというまちづくりの在り方について話し合ってきたものである。そのメンバーは、基本的には地区内で事業されている方、学識経験者、町内会会長、地元の方々が加入していた。行政は、立ち上げには携わったが会員としてではない。あくまでも地域主導で、事務局長が N P O の法人など色々な人とまちづくりに対して取り組んでいったという経緯があり、事務局長をメインとして先導されたという経緯がある。従って、どちらかと言えばまちをどう発展させていくかというソフト的な面での協議会というような位置づけになる。
上 江 洲 (沖縄国際大学准教授)	エリアマネジメント協議会の運営方法について、会議は定期開催なのか、また何を議論しているのか。
丸 山 (専 門 員)	活動状況と資金状況など分かればお願いしたい。
事 務 局	現在エリアマネジメント協議会の中に 3 つの部会がある。ひとつは地域のコミュニティを活性化させるコミュニティ活性部、そこではエリアの地域情報誌を作成、

	商業者との繋がり交流を深めてコミュニティを活性させていく取り組みを行っている。もう一つは、プロモーション部という名称で、各種イベントを企画開催するような部門がある。そこでは、協議会の広報ホームページ、フェイスブックと言ったような形で色々な人に情報が閲覧できるよう取り組んでいる部門がある。もう一つは、おがる（※）部、ここでは子育て世代の女性が楽しめる場づくりや、子供がたのしめる場づくりといったところを狙って取り組んでいる。 定例会開催なのかどうかについては把握しきれていない。また、その経営状況としては、実質助成金が100～200万円程度、会費収入30万円程度、協賛金・寄付金30～50万円程度、自主事業収入が30～50万円程度である。年間の収入としては幅があるが、200～350万円程度、それに対しましてもるもる自主事業の経費事務経費等で160～320万円程度で年間のプラスとしては30万円弱を年々繰り越しているところである。この協議会という組織体として自立、事業の継続性はまだ弱いというところは課題であるといったような資料を当日頂いた。 ※おがるとは「育つ」、「生長する」という意味。
上 江 洲 (沖縄国際大学准教授)	法人化はされていないのか。
事 務 局	現在はされていないが、法人化する必要があればその時に考えようという事になっているとの事である。ただ、法人化に向けた勉強会は定期的に行われているという話を伺っている。
富 川 (若手の会)	エリアマネジメント協議会と、土地区画整理事業の関わりは別なのか。
丸 山 (専門員)	エリアマネジメントは土地区画整理事業の後半に立ち上がっているため、実際の区画整理とは別々であり、市施行である事を考えると市が主体で区画整理組織の立ち上げに協力していったと思われる。どちらかといえば、最初からマネジメントをしようという事よりも、途中でいろいろな課題が出た中で地権者のまとまりを作ろうというところで懇話会が設立され、そこからエリアマネジメントに発展していったと思う。エリアマネジメントとは土地活用など考えていく事が本質だが、まだそこまでは入りきれておらず、<u>まだ成長途中という課題も抱えている。ただ、言われていた事としては、まず活動を継続していく事が大事だとの事であった。</u>
富 川 (若手の会)	第二土地区画整理事業について何か話を伺っているか。昭和63年から平成32年まで事業期間があまりにも長いので、世の中の価値観の変化など見直しもあると思う。

丸 山 (専 門 員)	現況が密集市街地のため、土地を整理し、道路を計画的に整備する事が主目的であったと思う。土地利用をどうしようといった事は後の話で、凄く密集していて災害に弱く、かつ先程のように戦災の被害が少なかったため、昔のまま土地を活用しようとしても出来ない状況だったと思われる。当時の区画整理の目的はおそらく道路を整備する事が発端なので、もちろん変更等はあったと思われるが、最初の骨格は変わらず、地区も3地区はセットである。そういう中で、現地を視察して歴史が見えないというのは、おそらく道路整備、土地活用が出来る宅地の創出というのが最初にあったからだと思う。その後、土地活用、西口のビル群や整備状況を見ながらの東口の整備と思われるので、マネジメントというのは後付けというように感じられる。
多 和 田 (ま ち 未 来 課 次 長 兼 課 長)	第一地区は商業系の土地活用の考え方からスタートしていた、当然バブルなどの様々な社会情勢の変化があったが、計画に変化はない。個人の思ったように使用収益していくと、なかなか商業が入ってこないため、地主もマンションを建て始めて、そこに居住する人が集まってきて住民がこのまちをどうしたらよいのかという話になってきたと思う。従って、エリアマネジメントもこれからであり、地主の方々や商業関係者と連携についても、やっと今お互いが信頼関係を築き上げたという感じでイベントの開催をしているという状況を感じた。
宮 城 (若 手 の 会)	エリアマネジメントに昭和(株)がコンサルタントとして参加しているが、他に全国で事例地区はあるのか。
丸 山 (専 門 員)	札幌など幾つか参加させて頂いている。
宮 城 (若 手 の 会)	この仙台が一番良い状況なのか。
丸 山 (専 門 員)	エリアマネジメントについては全国様々な地区があり、県の視察でも訪問されているところもあるため、機会があれば資料提供させて頂ければと思う。また、視察の際に配布した資料は、参加されていない方にも配布したいと思う。
石 原 (沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)	先程の話で「まちをどう発展させていくか」という話があったが、何を持って発展と考えているのか。
丸 山 (専 門 員)	商業地域として都市計画上設定されているが、マンションが建設され人口が増加しており、商業地域ではあるが、住みよい環境づくり、また、子育て世代女性のコミュニティも気にされている部分もあるため、住みよい環境づくりという事が、リーフレットやパンフレットの中には見受けられる。従って、コミュニティを形成しながら住み続けられるまちづくりというテーマで進めて行こうとしていると

	は思われるが、それは時代とともに協議会の中で話し合い、随時社会情勢に従って変わっていくものと見受けられる。
事務局	・・・地権者の土地活用意向調査結果について（資料②の説明）・・・
事務局	集計は12月1日時点である。アンケートは集計期限を決めなければ、長引くため、回答ハガキとしては受け取るが、礼状を近々に発送していこうと考えている。そこで、礼文含め「もしもご回答なされていない方がいらっしゃれば、ご協力ください」という一文を添えた形で発送させて頂き、目途としては12月末を目途に一旦締め切らせて頂いた方がよいのではと考えている。
丸山 (専門員)	回収率が若干前回と比べて率としては低くなっている。しかし、サンプル数としてはほぼ同等なので、統計データ的にはおそらく集計しても問題ない数字だと思われる。従って、先程事務局から説明のあった通り、年々土地が細分化されているという事、様々な土地利用など計画の内容が公表された中で、貸したい、売りたいという方に徐々にシフトしているという事は、自分で使うよりも、新しいまちに期待感が生まれてきているという解析となる傾向が出ている。この計画に対するご理解を頂く事により、益々まちづくりに関する興味が湧いてくるという事になるかと思う。この辺は定期的にアンケートを取る事によって、土地活用の意向は推移していこうかと思うが、徐々に自己利用というよりは、他のものに推移していくのではという事と、やはり計画についてまだ分からないというのも約3割強回答があるため、もう少し、合意形成活動の中でご理解いただけるようになると、よりの確なものになっていくと思われる。おそらく今回のデータは県市共同で進められている今後の計画づくりの参考にして頂けるのではと期待したいと思う。
石原 (沖縄国際大学 名誉教授)	社会調査の専門の先生が言われていた事は、郵送法で4割であれば御の字、実際調査して回って6割回収できればベストという事であった。
佐藤 (NB ミーティング 副会長)	P6の「土地活用意向の推移」について、今回の回答は複数回答のため割合の合計が100%にならないという事は分かるが、他の平成23年、平成15年も複数回答だったかという事が知りたい。
事務局	平成23年、平成15年とも複数回答である。
佐藤 (NB ミーティング 副会長)	「設問3__配置方針図」と「設問4__番重要度」について、6%弱の方が「良くない」と回答している。その方が何を重要にしているかチェックが必要と思う。次に、「設問4__重要度」と「設問5__所有する面積」について、今後まちづくりを進める上で、進めやすいかどうかを判断する尺度になると思う。クロス集計は単

	に分析の為のツールではなく、地主の方も我々NBミーティングも知ってそれをどう活かすかという事になるかと思うので、是非これは公開したほうがよいと思う。 それから先程、貸したい人が多くなってきた事は期待度の表れという解釈をされていたかと思う。しかし、5年前、13年前つまり同じ60代でも5年前の60代とは異なるわけで、おそらく期待度もあるかも分からないが、あまりにも楽観的な判断と思う。むしろ世代交代が進んで分割されて、生活基盤は他にある事から、返還後の土地活用は自己用にする必要が無くなっている人が多くなってきているという風に分析するのが普通と思う。それから、個人的に聞きたいのは、回収率ではなく、約4,000名弱配布されているが、県外の割合の増減について過去実施されたアンケートと比較して可能であれば情報提供して頂きたい。県外の方が結構買っているという噂もある。多分その方は投資目的か土地活用のためと思うので、逆に言うと土地区画整理事業がやりづらくなる可能性もある。県外の配布率を教えて頂ければ思う。
丸 山 (専門員)	前段の部分は参考にさせて頂き、最後の県外県内の割合は事務局の方で回答可能か。
事務局	次回報告させて頂きたい。
丸 山 (専門員)	意向調査については、12月を目途に締めて、改めてクロス集計も含めてこの場でご報告させて頂き、また地権者の方にもご報告させて頂くという事で考えている。
事務局	・・・NBミーティングの抱える課題について(資料③の説明)・・・
佐 藤 (NBミーティング副会長)	もう一度原点に戻る為に、市に確認したい事がある。それは、市としてNBミーティングに期待している事とは何なのか。
多和田 (まち未来課次長兼課長)	返還跡地は概ね区画整理事業として、地権者の土地を中心に検討していく事になる。しかし、施行に関しては公共の予算などから捻出する為、 <u>地権者だけでなくその周辺住民の方々や宜野湾市にお越しになる方々を含めた目線のまちづくりが必要になる</u> と思う。スタートは地主会中心に地権者意向を多く取り入れてきているが、平成17年、18年からは市民目線という事からのまちづくりについて様々なご意見を頂きながらこの跡地をしっかりとしたものにしていきたいというところからの発足だと認識している。
佐 藤 (NBミーティング副会長)	あと2つ重要な点があると思っている。 一つは、 <u>足元需要という事がまちづくりの上で非常に重要</u> で、例えばマンションを建てる場合、そこに移住される方は周辺の方々が1/3程度いるという原理原則

がある。それからショッピングセンターを建てた場合も、買物に行く方は周辺住民の方が多い。つまりお客様としての市民という位置がある。

もう一つの視点として、周辺はどう馴染んでいくかという問題があり、普天間跡地だけを計画するわけではなくて、どうやってまちとして一体化していくのかという問題がある。だから、近隣住民の目線、利用者の目線であり更にもう一つこれだけの規模の跡地利用は県全体の振興に関わってくるため県民の目線でもあるという事が言えると思う。

単純に納税者の市民の目線だけでなく、近隣住民や利用者であり県民であるそういう目線を合わせ持った意見を集約するという事が、NB ミーティングの役割かと私は認識している。現在、定例会常時参加者は3人となっており、私の意見を先に言わせて頂くと、これが10人、20人増やしたとしても、20人の意見でしかない。NB ミーティングは、究極何を行うべきかという、より多くの市民、利用者、県民から意見を集めようとする、20人が30人になっても30人の意見なのでむしろ10人でも良くて、その10人が如何に外部の団体や市民、県民の方と連携を取り意見を吸い上げられるか、もしくは若手の会や地主の会で意見されている内容をどこにどのように伝えられるか、そういう場を作る事がNB ミーティングの役目だと思う。そういう意味で現在の活動方針として、民間企業やタイモ畑農家、大学生とイベントを取り組む事で外部の方たちとも連携し、情報を発信し、かつ外部から意見を吸い上げ進めていこうという事が、今の方針として私は間違っていないと思っている。従って、人を増やすだけがNB ミーティングの成功ではなく、外部へ情報を発信して意見を頂き、NB ミーティングの活動に反映し、懇話会等場で説明する事がNB ミーティングの役目だと思う。懇話会場でNB ミーティングの組織の方針や運営の仕方についてアドバイス頂く事は心強い事である。しかし、残念ながら現在12月なので今年度のNB ミーティングには反映できない。従って懇話会として本当にNB ミーティングの組織を何とかしたいアドバイスして頂くのであれば、早期に行うべきだと思う。

また、懇話会については、様々な関係者が集まるので、各団体の活動報告の場としてもよいと思う。NB ミーティングは数を増やすのでなくて如何に外部と連携できる場を作れるか、そのためにどうすれば良いのか、という事に対して是非アドバイスを頂きたい。

丸 山
(専 門 員)

佐藤さんの視点からご意見を頂いた。その中の意見として、今年度の活動という事よりは、次年度に向けてという事になるかと思う。また、活動の報告については、年度末に報告の場を設けてある為、そういった場でご報告等を頂ければと思う。本日は特に、一般市民というよりは、利用者、近隣住民、県民というような視点、そしてNB ミーティングの立ち位置という事では外部の意見を引っ張る、あるいは場づくり、そういった活動を継続して、まちづくりに関する跡地との関連の情報を発信・受信する部分を懇話会などの場で報告して頂き、そして活動を

		<u>活発化していくといった発言があった。その為にも今後３人では少ないかと思われるため、１０人くらいまで増やしていく、あるいは、先程の発言にもあった視点や立ち位置というものについて、この中で議論をして頂ければと思う。</u>
呉	屋	私は知人をまちづくりの取組みへ勧誘する為に説明を行うが、理解が薄くイベントには参加するが実施後、定例会への参加もなく、イベントのみ呼んで頂きたいといったように一貫性がなく感じられる。実際に定例会に参加して、まちづくりに向けて地権者の方々と行政、一般市民の意見を取り組んでいるという事を示したいのだが、理解が薄い。一般市民の方からするとNBミーティングのタイトルが難しいような感覚を受けている事が感じられるため、私としてはサブタイトルを付けてはどうかと思う。「わたたーむらやー」などそういうのを作って、新たに会の募集をしてみようかという思いがある。
(NB ミーティング 会 長)		
丸	山	今のお話は、NB ミーティング「ねたてのまちベースミーティング」という名称が非常に分かりにくいという内容だったかと思うが、この件についてご意見があればお願いしたい。
(専 門 員)		
石	原	市民に分かりやすいネーミングを考える際に、これからのまちの担い手になる小・中・高・大学生の若者たちの、動機づけやモチベーションをうまく若い人に与えて、様々な意見を引っ張り出していきたいというような感じで考えたらどうなのかと思う。
(沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)		
富	川	ビジネスの世界で考えると自分の仕事を評価されて初めて達成感がある。そして、モチベーションも上がるから次のステップに進める。若手の会もNB ミーティングも同じ事だと思う。自分たちの活動がどういう感じで評価されるのかという部分が必要だと思う。そして、やりっぱなしでは、何をやっているのか分からなくなる事も問題であり、達成感が味わえない。どうすればよいかは非常に難しい問題である。
(若 手 の 会)		
佐	藤	評価ではなく、自分たちがまとめた意見がどう計画に反映されるのかという道筋が見えない。市民はその意見がどうやって計画に反映されるのかという道筋が見えない。それは悪い言葉でいうとアリバイ作りなのかと取る方もいると思う。そこはやはり、計画を動かす側としてNB ミーティングの意見は <u>こういう形で表現され、公開され、反映されるという事を明らかにして頂いた方が良いと思う。</u> 私たちはテーブルに集まって議論をするだけに留まらないほうがよいと思う。普天間に関連のある取組みのフィールドに行って、意見を聞いて戻ってくる。フィールドを外部に向ける方法もあると思う。NB ミーティングに参加していても面白くない。 <u>一般の市民の方はそもそも関心の低い分野なので、もう少しワクワクするような取組みにしていく必要がある。</u> しかし、楽しいところにシフトしていくという事だけではないと考えている。
(NB ミーティング 副 会 長)		

又 吉 (地主会会長)	佐藤さんの意見はまちづくりに対して基本中の基本だと思う。地主会と行政だけではまちづくりは出来るものではない。私は、NBミーティングや若手の会に対して理想がある。特に<u>NBミーティングは将来的にまちづくりへ興味のある専門家や難儀を厭わないで協力してくれる人、その人々が育ちNPOなどを組織してほしいと思っている。</u>NBミーティングが市民に理解しているか分からないという事は、今までアンケート調査を地権者向けに行っている。そこで、若い世代20歳から25歳の人たちに対して、現状の「まちづくり」に対して若い世代の考えを把握する為にアンケートを実施し、それに対しての市民の方向性を地権者の方々が理解し市民の考え方が反映できる。それに対してNBミーティングと若手の会は若い層の考えもまとめて活かして頂いたという事を発信し関心を引き出し、NBミーティングと若手の会に参加するキッカケは色々なイベントでもいいと思う。そのイベントが終わった後にアンケート実施を継続していけばその方法をもう少しみんなで考えていく事が出来る。
石 原 (沖縄国際大学 名誉教授)	これまでDVDで昔の宜野湾を説明したものや、将来のまちづくりイメージの映像があると思う。その映像を見せながら、それで色々考えさせるキッカケを触発させていくという、言葉で言うよりは見せながら話を展開させていくのもよいかと思う。
丸 山 (専門員)	NBミーティング呉屋会長、佐藤副会長へ、ワクワク感や参加のキッカケなど、何かに反映するという事が面白さはあるというみなさんの意見があった。また、参加する為のキッカケは、議論するより活動から入ったほうが良いのか、それと反映する道筋が分かれば、お題がありそれに対して何かを出せばそれが形になる事が分かれば良いと思う。
佐 藤 (NBミーティング 副会長)	原点を考えると、地主ではない市民は受動的である。だから、受動的なところでどのように関心を持って頂くかという事は、おもしろいか自分のやりたい事をやらしてくれるかだと思う。今のNBミーティングの運営というのは年間活動計画があり魅力を感じない。つまり、<u>自由性のある予算を少しでも割いてくれると活動で連携できる団体は増えてくると思う。そこをどうやってNBミーティングの組織として取り込めるかだと思う。</u>年度計画から離れた事は予算に入っていないから駄目だというような事になると、ただの話し合いの場合、つまらない場合、だから参加しないという事になってしまう。そこで、大胆に変えるにはネーミングもあると思うが、ネーミングだけでは解決しないと思う。そのもののやり方、予算の取り方で踏み込まないと先細りになる。大きく考えて来年度どうするかというのをやらないと、何度も同じ事をやる。そうすると益々少なくなり、消滅する可能性もあると思うので、是非自由度のある予算取りを私としてはお願いしたい。
丸 山	自由と言う事は大事だが、若手の会という跡地を地主さんの立場で考え、先ほど

(専 門 員)	の意見で出た利用者、近隣、県民という広い意味での市民の立場で考える。そして、まちづくりに関して何らかのアウトプットがあるというところが自由ではない。
佐 藤 (NB ミーティング 副 会 長)	私が考える自由と言うのは、考えるプロセスの事を言っている。例えば予算で芸術的なイベントを行おうと思っているわけではない。あくまで普天間飛行場が中心にありそれに関連する取組みで自分のフィールドは農業だと、そして農業で普天間に関連した取組みを行おうよ。私はその範囲であれば十分に公的な予算を使っても理由が立つと思う。
丸 山 (専 門 員)	その立場の中でアウトプットも合わせて計画を立てて結果がどうなるかを説明し、それがまちづくりに関係するという事をみんなが認識できればそのプロセスは自由でいいのかなと思う。
佐 藤 (NB ミーティング 副 会 長)	大変な事も分かる。年度予算が敷かれたレールの上を歩くような事では、一般の市民からすると全然魅力が無いし、おもしろくない、ワクワクしない、もちろん中心には普天間飛行場があるけど、意見を言って頂くためには自由性のあるものも必要だと思う。
上 江 洲 (沖縄国際大学准教授)	NBミーティングの方は確かに自由度が若手の会より高いと思う。ワクワクしないと人も寄って来ないので、<u>ワクワクするプロジェクトを一つ柱になるものが1回でもできれば組織としての人が集まってくる。</u>懇話会で話していたのは、並松街道再現のプロジェクトとして再現をしてみようかという事を一つ柱のプロジェクトにしてはどうかという話をした。NBミーティングも、まずやりたいと思う事のターゲットとジャンルを決めて、参加者が興味を持つような内容のプロジェクトを計画し、例えば次回、企画をNBミーティング発信してはどうか。また、名称も学生にいつも説明するときに、どうしてもNBミーティングとは何なのかと聞かれる、意外と学生は色々な団体と接するので、怪しいのではないかと感じてしまう。分かりやすいサブタイトルのプロジェクト名があれば、それを一緒に作り上げる、そこには他のフィールドを持っている団体がタイアップしてくると思う。<u>NBミーティングは、ネットワークを作って情報を収集し、発信する事も大事である。最初はそういう方の力を借りてサブでもよいかと思う。しかし、メインになってほしいという思いがある、その為には3人以上は必要かと思う。最初に計画を立てて、今年自分たちはこれを実施したい、そのためにはこれだけの人が必要である、となった時、例えば学生とか参加者ではなくて運営の方でもボランティアが必要となった場合、事前に期間も決まっていれば集める協力は出来る。</u>しかし、学生も忙しいので自分にメリットがあるかないかみたいな事を考える。従って、そういう意味では1ヶ月前では厳しいため、事前に実施内容をお伝え頂けたら、人集めなどより大々的に出来る。

佐藤 (NB ミーティング 副会長)	会長が懇話会から「植木を作るプロジェクト」をNBミーティングに持ち帰った時に、NBミーティングで議論が行われた。何が議論の中心となったかという、自分たちは賛成もしていないし、やりたいとも思っていないとの考えで、コンサルや呉屋会長と議論を交わした。自分たちが考えた興味のある活動ではなくて、上から降ってきたようなプロジェクトに参加しろ、協働しろ、という事に対して反発した。
上江洲 (沖縄国際大学准教授)	自分たちで考えたものを、 <u>年度末に次年度はNBミーティングとしてはこんな事を行いたいという事を発信</u> して、それでこれだけの人が必要で若者も必要というならば、若者を集めるといった協力は出来るはずである。
佐藤 (NB ミーティング 副会長)	それは大変ありがたい。しかし、NBミーティングが中心となり、集まった人達に指示して動かすという事はすごくエネルギーが必要な事だと思う。それが今のNBミーティングでは難しいと思う。
上江洲 (沖縄国際大学准教授)	最初の内は、他の団体とタイアップしてよいと思う。しかし、永遠にそれではもったいない。
佐藤 (NB ミーティング 副会長)	タイアップと言うよりも、そのフィールドに行って意見を吸い上げて戻ってくるという感覚でよいと思う。個々が協力してくれる団体の所へ行って、そこで考えてきた事を定例会場で発表するという形でもよいと思う。つまり、先ほど発言したように、5人が10人になり10人が20人になっても20人の意見を代表しているわけではない。 それは20人の意見に過ぎないわけで、むしろ<u>20人が集めてきた意見がNBミーティングの役目として重要だと思う。それを如何にまとめられるかだ</u>と思う。
上江洲 (沖縄国際大学准教授)	そうすると全員がワクワクしないのではないか。まず、その問題に対してワクワクするフィールドが分かっているという事が条件になる。
佐藤 (NB ミーティング 副会長)	ワクワクというのが独り歩きしてしまっている。ワクワクしなければダメだという事ではなく、多少のワクワク感が必要という事である。もちろん真面目に使命をもって行うべきだと思うが、それだけではダメだという事を言いたかった。 NBミーティングの存続という事を絶対条件ではなく、出入りも自由だし、若い人たちは来ないけどSNSで意見を言えるなど、これまでの活動を通しての財産として、今でも講師の人と私たちは繋がっている。こういう方も、メールだったら意見言えるよというそれは多分地主会でもやられてないだろうし、そういう特徴を活かした組織であれば良いと思う。
丸山 (専門員)	様々な意見が出て参考になるが、今日は時間も押しているため、出来ればまた引き続きこういう場で意見を頂ければ思う。いずれにしても <u>NBミーティングが</u>

組織として何かやりたい事を企画するというのがもしかしたらスタートで、そのやり方はプレーヤーが集まって所属事務所がNBミーティングみたいな感じがいいのか、もしくは組織体なのでひとつの方向性なり結果を出すというのかという事で、分かれると思う。佐藤さんは、色々なプレーヤーが色々な活動をして、それを所属する組織がNBミーティングで、それぞれのプレーヤーが連携し、そういう人たちが増えるというきっかけというものも増えるかもしれない。

石 原
(沖 縄 国 際 大 学
名 誉 教 授)

ファミリーマートと各大学と弁当を作って、ああいう風に若者たちがアイデアを出してくるという、ひとつの人を集める方法だと思う。

丸 山
(専 門 員)

また次回引き続き検討した中で、皆様のご意見を頂ければと思う。少し方向性が見えてきた部分もある為、次回もまた引き続き意見交換をしていきたいと思う。

又 吉
(地 主 会 会 長)

先ほど佐藤さんの意見も大事ではあるが、皆様方にとって一番予算が要である。事業でもなんにしる、予算内で出来る範囲を言わないと、希望だけ出しても実現性が無いという事にもなりかねない。

(4) 第4回実施概要及び議事要旨

1) 実施概要

①日 時 : 平成 29 年 3 月 8 日 (水) 17:30~19:30

②会 場 : 宜野湾市農協会館 2 階 でいご

③出席者 : 石原 昌家 沖縄国際大学 名誉教授【会長】
(敬称略) 上江洲 純子 沖縄国際大学 准教授【副会長】
又吉 信一 宜野湾市軍用地等地主会 会長
佐喜眞 祐輝 宜野湾市軍用地等地主会 副会長
又吉 真由美 宜野湾市軍用地等地主会 事務局長
呉屋 力 普天間飛行場の跡地を考える若手の会 副会長
富川 盛光 普天間飛行場の跡地を考える若手の会
宮城 武 普天間飛行場の跡地を考える若手の会
呉屋 勝広 ねたてのまちベースミーティング 会長
佐藤 努 ねたてのまちベースミーティング 副会長
多和田 功 宜野湾市基地政策部まち未来課 次長兼課長
丸山 昭彦 専門員 (昭和株式会社)

《事務局》

塩川 浩志 宜野湾市基地政策部まち未来課 係長
下地 英輝 宜野湾市基地政策部まち未来課
石井、崎山 (昭和株式会社)

④式次第 : 1. 開会
2. 報告
(1) 第3回懇話会での意見 (参考資料①)
(2) 今年度の活動概要報告 (資料①)
(3) 地権者の土地活用意向調査結果報告 (資料)
3. 議題
(1) NB ミーティングの抱える課題について (資料②)
(2) 若手の会の抱える課題について (資料③)
4. 閉会

⑤配布資料 : ・第4回普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 次第
・資料①: 今年度の活動概要報告
・資料②: NB ミーティングの抱える課題 (フィードバック)
・資料③: 若手の会の抱える課題
・参考資料①: 第3回普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 議事録
・資料: 平成 28 年度普天間飛行場跡地利用に関するアンケート調査 報告書 (案)

2) 意見概要

事務局	・・・地権者の土地活用意向調査結果報告（資料の説明）・・・
丸山 （専門員）	アンケート調査の内容について、意見・質問を頂きたい。
宮城 （若手の会）	発送数は3,968通、うち市内が2,617通、回収が1,204通、市内が725通となっているが、市内の方が低い状況なのか。計算すると市外が35.23%である。市外の方が関心は薄いと予想していたが、意外に逆となっている。市内は、13字別の回収率も分かるのか。
事務局	今回、無記名で場所も特定していないため把握できない。
佐藤 （NBミーティング 副会長）	6頁の土地利用意向の頁だが、「貸したい」「保有したい」という割合は、世代交代によって変化してくると思う。相続すると生活基盤が既に別のところにあるため、相続された土地（軍用地）は「貸したい」という方が多くなるはずである。つまり、ここではアンケートに答えた方だけの割合だが、これに大きく関連するのは、例えば土地の筆数だとか、所有者の数だとか、平均年齢などがある。これらのデータがあれば、なぜこういう割合になっているのか、これはあくまでアンケート調査に答えた30%だけの意見であるが、全体の把握として所有したいという率が減少傾向の可能性があると思う。 その辺も推察・考察する意味では、土地の筆数や所有者数、所有者の平均年齢などのデータを合わせて特定できないように表示すると今後の土地利用についてヒントになってくるのではないか。土地利用意向はすごく大きなアンケートの要素だと思うため、単にこうだったという決め方ではなく、今後どうなるという可能性のある考察が必要ではないか。 また、市外が増えているのもその傾向だと思われる。所有者のご子息が那覇市や県外に行っているなど、所有者の数も市外の人の数も多くなり、平均年齢も低くなると思われる。そうすると土地利用の意向はかなり変わってくる。おそらく今は二代目、三代目の方々へ引き継がれていると思う。アンケートの中身を年代別に分類するのではなくて所有者で分類する事はできないか。何筆あるかとかは地主会では分からないのか。
又吉 （地主会会長）	今は個人情報の兼ね合いもある。アンケート回収率は30%で統計上20%あれば信頼性があるといったものはあるが、これは今いったように我々地主会の会員の平均年齢が60歳である。現在は大半が2代目になっているが、まだ高齢者が

	多くて、今の時期にまだ返還時期が分からない。そしてまだ計画が進めなく、ただ大まかな国際拠点ゾーンとか説明会してもなかなか地権者は参加しない。 生活を確保するために今の時点では従来通り、貸して借料得たい生活費にしたいというところまでそのデータにでている。 キャンプ瑞慶覧も 5 割、6 割は貸したいという結果がでている。今の時点では 3 割だが 3 年、5 年後には大分変わってくると思う。年齢的にも 2、3 代目に代わってくるはずである。毎年相続税が発生して、今の法律では毎年多くなる。それがこれからの地主会として難しい。例えば市内、県内だったらいいが。今はまた売買などで県外在住所有者などもおり、余計難しくなっていく。 現時点では、はっきりしたデータは難しい。
佐 喜 眞 (地主会副会長)	3 頁の「将来のまちを考える上で重要項目」について、7 つの項目をあげながら、1 つに絞るような回答方法である。 その質問のやり方によると思うが、特に、字宜野湾やその他の字は、そういう文化財的な事も重要視している。今回の場合、1 つを絞るのではなく、複数回答してもよいかと思う。皆さんも考え方が出てくるのではないか。
富 川 (若手の会)	アンケート 6 頁の土地を売りたいというパーセンテージが 25 % であるが、という方が回答されたか知りたい。県外の人が投機目的で買っているのではないか。あるいは遺産相続で相続はしたものの坪数が小さいから売りたいというそういう層が増えているなども想像できる。
事 務 局	追求しようと思えば可能である。年齢層や世代や持家なのか借家なのかはクロス集計が可能かと思う。
佐 藤 (NB ミーティング副会長)	売りたいという人が多いと先行買収が多くなる可能性があるので区画整理がやりやすい、売らないという人が多いと難しい。 4 頁の「どちらかといえば良い」という人と、「どちらかといえば悪い」という中間層の一番多い要素が、沖縄振興に、両方とも「どちらが良い」とも「悪い」もどちらも 1 位が沖縄振興にならない、もしくは沖縄振興になると考えている事になる。これを考えた時、600 人がそう答えており、全体の 3 割弱となっている、おそらく「わからない」からここに丸をつけている。
又 吉 (地主会会長)	先ほど話があったように、具体的な理解、沖縄振興が抽象的で、何か分からないから丸をつけているという事も考えられる。
佐 藤 (NB ミーティング副会長)	逆にその計画から沖縄振興が読み取れないという事なのかもしれない。

又 吉 (地主会事務局長)	佐藤さんの質問について、地主は自分のバックボーンが見える質問には答えたがらない。地主会でアンケートとは別で、毎年度末に、普天間飛行場の所有者人数と平均面積のおおよその数値は持っている。個人を特定して情報を、というのは難しいが、毎年度末作っているので、参考になるかもしれない
丸 山 (専門員)	あと、今回のデータと照らし合わせた時に、何か見つけられるかもしれない。それを試してみるのもひとつあるかと思う。アンケートは継続的に実施していく事になるので、今回、過去も含めて、次回の方法などを十分検討していく事によって、その時点での考えを知る上で必要になると思う。
又 吉 (地主会会長)	今回5箇所ではアンケート説明会を行い、地権者になぜその意向調査が必要かと思うかと言うところを伝えた。行政が行う基礎データになると。それがないと、ゾーンは作れない。公共用地土地活用など、基礎的なデータになる大事なデータである。字別説明会での質疑応答で大川会長が回答されたように、皆様が変わったら計画も変わる。データも変わる。それをしっかり抑えてやるといいと思う。
石 原 (沖縄国際大学 名誉教授)	皆様の話を聞いて思ったのだが、このアンケートを実施するにあたり、 <u>地権者の多くは年配者である。「子や孫にどんな街づくりを」という意見が出てくるような設問を立てるのはどうか。</u> 60歳から80歳となると意見を聞くだけではなく、「子や孫にどんな町にしたいか。」遺言になるようなアイデアを引き出しておく。 こういった事はアンケートを実施する点で大事なものになるのではないか。
丸 山 (専門員)	今のご意見は高齢の方から将来、時代を背負う方にどういったまちづくりにしたいか。 <u>渡す側と渡される側にも聞いておく必要がある。</u> 渡される側の視点と渡す側の視点はずれているかもしれない。今後実施する時に対象者や地権者イコール高齢の方が答えている、将来の町となると対象者を工夫する。どういったマッチング、あるいは制度が考えられるのか。今後のまちづくりについて大事な情報となる可能性がある。
石 原 (沖縄国際大学 名誉教授)	選択肢が一つというのは難しい。自分がどういう風に答えるか考えた時に3つはあった方がよい。
上 江 洲 (沖縄国際大学准教授)	アンケートの回収率をどのように上げるかを重視したので、設問に関しても工夫をした。ただ前回、前々回と比較できる形を取らなければならないため、かなり苦勞して絞り込んだ。先程の指摘にもあったように、この先の事を考えると、実際地区毎にも異なるのか、世代間で異なるのか、やはり筆が小さくなっているか

	ら、今自治会が持っている資料と照らし合わせれば今回はそこが見えてくるかもしれない。 今後実施する時に、答える側のハードルを低くするために、字や具体的な面積を答えさせないために考えた。しかし、逆に発送する時に、どここの地区に発送したか分かるように、記録を残せるか。そうすると、回収の時にどの地区から帰ってくるかが分かる。
丸 山 (専 門 員)	工夫は可能かと思うがそれは個人情報となる。地域の意見として公表されたときにどう思われるかがある。行うならば、事前に十分に説明し、ご理解を頂ければ可能だろう。
上 江 洲 (沖縄国際大学准教授)	以前は記名やあるいは自分で情報を書き込むのでハードルが高いと思うため、断りを入れずに実施する事はできない。しかし、いずれ地区の情報が具体的になった時に更に細かな情報が必要である。今はこの絵を書く時に、情報としてどの地域がどれほど歴史を重視しているかと思うとそうではない地域がある。それが見えてくると絵が描きやすくなる。そして地権者の意見が反映されやすいものとなる。 個人は無記名で一切特定はできない、という説明ができれば、今後の話だが、その時の手法の一つとして、他人に委ねるではなく、こちらから発信するというのを考えるのはいいのではないか。
又 吉 (地 主 会 会 長)	地域ごとなら良い。個人は個人情報の問題がある。出来ない事はない。何年前かは苦情が多かった。そして、コンサルに委託して、コンサルが家庭まで訪ねていった。人の財産に首突っ込んでなどと、色々な苦情があった。あの時は、普天間飛行場返還の希望があった。その時は約70%の回収率があった。回収先については、例えば、郵便局などで発送の番号を見ればどの地域なのか見分けがつくだろう。
丸 山 (専 門 員)	アンケートは次回以降に検討し、この意見を十分配慮した中で皆様に御協議頂く。次の議題に進みたい。今回、NBミーティングについて前回、色々ご意見頂いた中で、NBミーティングの組織として検討された事を報告し、更に報告に対しての意見、アドバイスを頂きながら進めたい。まずは、呉屋会長からどうぞ。
呉 屋 (NBミーティング 会 長)	・・NBミーティングの抱える課題について（フィードバック） (資料②の説明)・・ NBミーティングの課題について、組織の活性化や会員を増やすという事で貴重な意見を頂いた。それを定例会の中で話し合った結果、現在少ない人数で意見を挙げていく事について難しいところもある。現状を踏まえながら組織を活性化す

丸 山
(専 門 員)

るには、会員を増やす方向で考えていく事が定例会で決まった。そのための方法のひとつとしては広報活動を行っていくという事になった。

各自治会と事前調整を行いながら団体の集会にも参加し、NBミーティングの趣旨や活動報告などを報告し、そこで会員を増やしていく。

実施は4月に「まち未来便り」が発行されるため、そこにあわせながら取り組むつもりである。

もう一つ、NBミーティングとして、今後のプロジェクトは、2月25日に実施した「NBまちづくり分科会」を通して様々な提案・意見を頂いた。その案をNBミーティング定例会の中で具体的な取り組み方を検討し実施に向けて進める。今回、皆様から頂いた意見を元に議論し、方向性を決めた。また意見をよろしくお願ひしたい。

広報活動を積極的に行っていくというのが1点目である。

「NBまちづくり分科会」で学生と一緒に活動の方向性や分野ごとの方向性など、非常に活発な意見が出て、市民目線での活動の様々なアイデアをNBミーティングの活動の方向で進めていくという事で報告を受けた。その部分で何かアイデアがあればと思う。ここで皆様から意見頂ければより活発な活動が展開できるだろう。

宮 城
(若 手 の 会)

呉屋会長の報告にもあった「NBまちづくり分科会」について、今日新聞に掲載されていた。「フェンス沿いのウォーキング」や「写真コンテスト」などの提案が掲載されていた。前回の懇話会で、一つの案として次の市民を巻き込んだ参加型イベントの話が出ていたが、NBミーティングの皆さんから反対の意見がでたという事を聞いた。各地で植樹のイベントが盛んで、小学生でもできる。まちづくりの気運を高めるには良い行動ではないかと思っていた。それが反対という方がいるとは思ふ。しかし、大勢で出来る事から行い意識を改革する方がいいのではないかと思う。

並松街道の再生を行うという事で、懇話会の発展系として夢会議として、その夢会議で並松を育てるために前段階で苗木の育成など大勢が参加して跡地利用、夢のまちに繋がられるのではないかという事が、去年の最後の懇話会の議論だったのではという事を記憶している。

佐 藤
(NBミーティング
副 会 長)

その発言には誤解がある。反対ではなく、上から強要されるのが嫌なのである。自発的なものは喜んで行ふ。懇話会で決まったからやらないか、という問いかけに、少し反発があったという話である。

先程、呉屋会長から発表されたものでもあったが、NBミーティングに対して意見が2つある。1つは、「NBまちづくり分科会」から感じる事は、おそらく年齢によって、まちづくりの参加の仕方が違うのではないかという事である。つまり、参加してくれた学生の方の提案として、喜劇、ウォーキング、まちまーい、

科学体験、農業体験があった。彼らは自分たちで企画して、自分たちでイベントを行いたいという事が若い世代や20代の参加の仕方である。一方、現状のNBミーティングの年齢は60代や70代である。そのため年齢別で参加しやすい方法がそれぞれある。

しかし、これまでは企画を60代、70代の人を中心に考えていたから参加が難しかった。逆にいうと、年齢別、ライフスタイル別、複数の参加したい方法を、NBミーティングが受け入れて行うスタイルの方が私は発展していきやすいと思う。

例えば、「NBMまちづくり分科会」の5チームから挙げた提案について、実施してみてそこから抽出する事がNBミーティングの役割ではないだろうか。

まちづくりとは、土地利用計画、区画整理などの事業が決まり、民間事業、公共事業、施設が立ち上がるという風に流れる。それを、NBミーティングとして継続的な活動でまちづくりに活かすという事は、どの場面で活かすのかという事が重要である。年齢別に参加しやすい、もしくは参加したい方法がそれぞれあるのであれば、それぞれの「したい、できる方法」で参加して頂き、そこからまちづくりのエッセンスを抽出する事がNBミーティングの出来る役目だと思う。

60代、70代が考えた参加の方法で、呼びかけるとするのは無理があるというのが私の結論である。

どちらかというと、コーディネート型、プロモーション型というのがNBミーティングのあり方として今後あるのではないかと思う。そうすると、例えば今回5チーム参加してくれた学生が来年度活動の1つでも2つでも予算を頂ければ実施できる可能性があるかもしれない。その中で、参加した人達の意見をNBミーティングも一緒に参加して抽出する。それを、まちづくりの計画の中でこういう意見があった、こういうプラン、もしくはまちづくりの方針もあるのではないかと、という事を提案していくと、NBミーティングの会員も増え、幅も広がり、年齢的な色々な意見が集められる気がした。

そういう形のNBミーティングのあり方を検討したいと私としては考えている。

丸 山
(専 門 員)

前回、上江洲先生から次年度のNBミーティングの活動について行いたい事について発表してはどうかという意見があったが、今の会長からのご報告は一致してくると思う。

石 原
(沖 縄 国 際 大 学
名 誉 教 授)

若い人から出てきたフェンス沿いウォーキングの提案は非常に良いアイデアで、さらに付け加えると、「昔はこの町はこうだった」と言って歩きながら、「今ここをどういうまちにしたいか」など、歩きながらポイントポイントで意見を徴収する。または書いてもらう。1周でかなりの意見が頂けるのではないかなど、その工夫も一つかと思う。

呉 屋 (NBミーティング 会 長)	事前に私がフェンス沿いを提案学生へ案内した。学生のアイデアでは歴史など一緒に教えるタイアップをするなど色々な意見が出た。写真を撮影しクイズを出しながら、「健康についてどうなのか」「フェンスと市街地周辺で何が不便なのか調べてみよう」などたくさん意見が出た。その中で一緒にやる事でやりがいがあるのではないかと感じた。学生の皆様も自分も参加したい、次はいつ頃か、2回に分けて行うなど前向きな意見が出てきた。ワクワクする参加型はその辺を考えて作っていただければ良いかと思う。
宮 城 (若手の会)	若手の会でも10年前にフェンス周辺のウォーキングを行った。宜野湾小学校に集まって、佐真下を通り、森川公園までの約3分の1しか歩けなかった。小さい子もいるので1周だと時間もかかり、そういった活動があってもいいのではないかとと思う。
多 和 田 (宜野湾市まち未来課 次 長 兼 課 長)	「NBMまちづくり分科会」では色々な提案が出た。今までは学生単独の提案が多く夢はあるがそれは違うかなと思った。しかし、今回は提案の検討の中にNBミーティングや、学識のある方を呼んで、意見交換を通して練り上げていったという事が良かったのではないかとと思う。 先程、佐藤さんからもあったが、もしかすると事業として実施の基礎的提案になったのかなと思った。それをNBミーティングとして受け入れて、学生の協力や他の方を巻き込んで行っていくなどイベントの道筋がみえたのかなと思う。 ウォーキングなどは過去に行った事があるかもしれないが、思考を少し変えてやる事に、大きな光がみえた気がした。今回、非常にこれがよかったと思っている。これを学生の力やいろんな力を借りてやっていただければと思う。
丸 山 (専門員)	多和田次長から発言されたように、種をこれから膨らませるとするのは、目の前のNBミーティングの活動課題になるだろう。それは多分「合意形成事業」も市でも今後も次年度も続けられると思うので、早めに何をしたいのかというものは発信してもらった方が、行政の方が事業としてどこまで踏み入れられるかなど予算など色々条件があると思うので、そこは定例会でも自主会でもどんどん詰めていくのだろうなと思う。
多 和 田 (宜野湾市まち未来課 次 長 兼 課 長)	我々は普天間の跡地利用を考えている。当然地主会や若手会など、跡地をどうしていこうかというのが大きい。当然NBミーティングも考えていくのだが今回のNBミーティングのイベントは、跡地になる前の今の段階でできるイベントの提案を考えるというものだった。 跡地になる事が根本にあるわけだが、その中で今考えて行える事が出ていたため、それは活動として十分行っていけると感じたため、そういった部分を考えながら、しっかり跡地になる事を考えなければならなく、後からマッチングして考えていく事が大事である。こういった取組みかたは大事かと思う。

佐藤 (NBミーティング 副会長)	懇話会に、(株)がちゆんさんも参加してもらった方がいいのではと思う。我々の活動を助けてくれるだけではなく、彼らは大きくユニークな企画力を持っているため、懇話会の活性化にも繋がると思う。(株)がちゆんさんのメンバーを懇話会のオブザーバーでも良いので加える事が良いと思う。
呉屋 (若手の会副会長)	(株)がちゆんさんや分科会に参加した学生さんはNBミーティングに加入する要件を満たしていないのか。 NBミーティングの中に取り入れたら参加できるのではないのか。
佐藤 (NBミーティング 副会長)	根本的なNBミーティングの課題は、企画をする能力、人材を集めてくる能力、運営する能力がNBミーティングにはない。そこを補ってくれるものとして、(株)がちゆんさんだけではなく、そういうサポートが必要である。だから全部メンバーとして取り込んだとしても、そこで動かせるかというとNBミーティング中心では動かしきれないと思う。
呉屋 (若手の会副会長)	いいえ、私が言いたいのは、会員にしまえという事である。(株)がちゆんメンバーがNBミーティングメンバーとしてあってはいけないというのはなくて、(株)がちゆんメンバーがNBミーティングの中で企画して行っても良いのではないのか。
佐藤 (NBミーティング 副会長)	会員にこだわる理由はあるのか。
呉屋 (若手の会副会長)	いいえ、タイアップでも良いが、懇話会に(株)がちゆんを呼んだらどうかという意見が出たため、NBミーティングに入れば懇話会参加の要件もクリア出来るのではないのかという事で疑問が生じた。 例えば、昨年も学生会議があったが卒業後に県内に残っている者がNBミーティングになぜ入らないのか。これだけ関心がある若者が県内に残っていてなんで要件が満たせないのかなと思う。
佐藤 (NBミーティング 副会長)	多分、要件そのものが彼らにとってややこしいと思っている。 イベントという関わり方では参加したいのだろうが、正式にNBミーティングの会員になるのは嫌に感じる事だと思う。
丸山 (専門員)	アプローチ、トライする事は必要なのではないのか。
呉屋 (若手の会副会長)	例えば、定例会に毎月常時来て貰うでも構わないのではないのか。特に会員にならなくても良いから、オブザーバーでいいから参加して、というふうにしてもよいのではないのか。

佐藤 (NBミーティング 副会長)	会員の概念を変えたらいい。例えば来なくてもメールで繋がっているだけでも会員とすれば良いと思う。
呉屋 (若手の会副会長)	私もそれは賛成で、今回の課題は会員を増やしたいなどであり、会則や要件を変えるなどを行えばNBミーティングは拡大するという話ではないか。
佐藤 (NBミーティング 副会長)	私自身は会員の増にはこだわってない。メールでも繋がるし、県外にも繋がる。
呉屋 (若手の会副会長)	若手の会もそうである。敷居は下げるようにしている。大川会長が楽しくしようと言ったのもあって、3年来なかった人が突然くる事もある。これまで来なかった人が来る事もある。 NBミーティングはわからないが、若手の会は一度登録した人に常に全て議事要旨を発送しているようにしている。つまり、まちでたまに会った時に参加を誘い、案内が届いているかの確認をしている。ずっと来なくても内容を理解していれば突然来ても参加できるだろう。NBミーティングも当初は大勢いたのはどうなったのだろうか。ずっと案内は続けているのか。NBミーティングはおそらく若手の会より人数は多いはずで、50人ぐらいいるのではないか。
丸山 (専門員)	発送は続けている。
呉屋 (若手の会副会長)	通知も送り続けて、議事要旨も送り続ければ流れも理解できると思う。
丸山 (専門員)	規定を変える事は順次やっていけば良いが、(株)がちゅんというのは目の前にいて、今までも多く関わって頂いているので、そこを取り込む事は目の前にあるから効果的かと思う。
呉屋 (NBミーティング 会長)	<u>今のNBミーティングの現状としては、実際3名やひどい時は2名の場合もある。どうしても10名ほどで議論したい。ただ人数を増やすという事ではなく、最低限ある程度まちづくりについて一般市民との意見交換会が定例会の中で推進していけばというのが一つの狙いである。</u>
又吉 (地主会会長)	組織であるためある程度は規定に基づく。 一番大事なのは「継続」「完成」そのための分科会、ワークショップも行ったが、毎年それを目的にしてNBミーティングは行ったら良いと思う。その中で貢献したい方、賛同する方が必ず出てくると思う。その方々を2年から3年巻き込んでいけば良い。誰でも良いからという訳ではなく(それだと一貫性がなくなるので)それを1事業・目標として行っていけば増えていくのではないかと思う。

呉 屋
(若手の会副会長)

地主会が重視するのは、将来に向けての人材育成、若手の会、NBミーティング、その方々が将来に向かってまっすぐ取り組む、というのが大きな目的である。地道なものだけど継続して市民に認知させる事が一番大事ではないかと思う。

イベント型から市民が入りやすくするという事だが、先程出た植樹の話がある。それをNBミーティングとしてはイベントの企画にはしたくないという感じだと思うが、様々な企画を行えば良いと思っており、私たちも地権者にもう少し関心を持って頂く活動となればよいと思っている。NBミーティングは市民側に、懇話会の企画は懇話会の企画、NBミーティングの企画はNBミーティングの企画、若手の会は若手の会で独自でやる。そして懇話会で決まった企画を通して、地権者がそこから興味・関心を持ってくるか、市民が関心を持ってくるか、それはやってみなければわからない。

懇話会ででた企画を行うとした場合でも、懇話会の全員、地主会の全員が参加する訳ではない。NBミーティングも会長一人顔を出せばいいだけかもしれない。従って企画は色々試していかなければならないと感じる。

実際、若手の会も様々な企画を実施するが、全員が参加する訳ではない。私はNB Mまちづくり分科会を見学に行った、学生の提案は確かに素晴らしい。やってみないとわからないためみんなで一緒に行ってみても良いのではないかと思う。

佐 藤
(NBミーティング副会長)

5つ出た案をNBミーティングに持って行ったら彼らは引いていくと思う。

おそらく、彼らの中で企画を作ってやってみようと、暖かく見守っていく方が、彼らとしては受け入れやすいと思う。

振り返り会を彼らの年代だけで行っているかと思う。僕らは呼ばれていない。だから基本的にはいいのだが、彼らは彼らのネットワークでやりたい。それはNBミーティングとして理解しなくてはならない。一緒にやっていこうと言っても、引いていくだろう。

呉 屋
(若手の会副会長)

学生たちもそうだが、私たちも、NBミーティングもここにいるメンバーもまちづくりに関わっている。なぜ、そのメンバーに企画の情報が入って来ないのか。せっかくまちづくりに関心があるメンバーがいるのだから、誘ってもいいのではないかと思う。

自分たちで運営するのはいいが、私が気になったのはNBミーティングさんの9月のイベント一般参加者は4名、2月の分科会は5名、この人数が気になった。この広報にもう少し力を入れれば良いのではないかと思う。

今回は私と佐喜真さんが参加したのだが、おそらく市報をみて来たのかと。ただ事前に若手の会という存在も分かっていた。案内を出してもいいのかと。そしてもう少し一般的な外野のメンバーを増やさないと、結局この人たちだけのイベントになってしまう。

富川 (若 手 の 会)	佐藤さんに聞きたい事がある。佐藤さんの意見のように、NBミーティングが「一緒にやろう」というと学生は引く。学生は自分たちの企画は自分たちでやっていきたいというように見えるという事なのか。
佐藤 (NB ミーティング 副 会 長)	私が言いたいのは、(株)がちゆんさんがコーディネートした各チームがある。その学生たちが自分たちのネットワークでやりたいのだと僕は思っている。
富川 (若 手 の 会)	やるのは結構である。これをNBミーティングや若手だとかへ広く影響を及ぼしたいと考えているのか。または単純に自分たちだけで活動して自己満足したいのか。
佐藤 (NB ミーティング 副 会 長)	おそらく前者の広く、多くのほうだと思う。
富川 (若 手 の 会)	それならば、なぜ「一緒にやろう」と誘っても引くのか。
佐藤 (NB ミーティング 副 会 長)	彼らは企画が好きなのである。自分たちで組み立てていき、それを運営していく力を持っているのではないかと私は思う。
富川 (若 手 の 会)	ひたすら見守るのか。
佐藤 (NB ミーティング 副 会 長)	私もそこは共通点があると思っていて僕は企画が好き。人から意見を言われる事が嫌である。だからそうなのではないかと思っただけである。
丸山 (専 門 員)	向こうが引くのではなくこちらが引いているのではないか。
石原 (沖 縄 国 際 大 学 名 誉 教 授)	その点で意見を言わせてもらおうと佐藤さんがいうのもわかる。富川さんがいうのもわかる。要するに僕の経験からいうと学生が企画中に私たちから何か言われるとものすごくカッとなる。 それで、つかず離れずの形で見守りながら、足りないところを支援するというスタンスをとる。暴走しそうになったら止めるなどアドバイスをしてあげるような気持ちで向き合う。若者は底知れない潜在能力を持っている。それを引き出すようなスタンスでいくのが大事かと思う。ハマったらすごい。僕らには及ばない力を発揮する。というのを僕は経験している。頭が上がらない。
佐藤 (NB ミーティング 副 会 長)	(株)がちゆんさんも力を持っているが、その先にいるこの学生達、彼らは我々のパートナーとして色々な事を行ってくれるのではないかと思います。 僕らが離れるのではなく一緒にやるのだが、自分勝手に入っていくと彼らは引いていくだろうなという感じがする。

石 原
(沖 縄 国 際 大 学
名 誉 教 授)

それはよく分かる、つかず離れずのスタンスが大事である。

丸 山
(専 門 員)

時間もあれのため、今回若手の会の方への課題という事も議題としているため、十分に議論する時間もないのだが、課題を表に出して頂いて、それを今日お聞かせ頂いてこの場で意見交換したい。

呉 屋
(若 手 の 会 副 会 長)

・ ・ 若手の会の抱える課題について (資料③の説明) ・ ・

今説明資料はコンサルに作ってもらったものである。本日、若手の会は私以外二人参加しているが、おそらく内部にいると客観的に課題として見えるのではないかと思う。先程、参加人数が多ければいいのか。という話もNBミーティングの時にあったが、私が感じたのは、10名程度でも1時間半の定例会では時間が足りない。10名全員が発言する機会は与えられない、また、議論の中身なども少し課題だと思うが10名でも話が揃うわけではない。

知名度の話だが、地権者意見交換会で初めて知ったという話だが、地権者は増え続けており初めて来る人が知るのは当然だ、知名度が実際はどの程度なのか、会場の何力所かで若手の会が発言する時に、「若手の会を始めて知る」という質問に対して手を上げて頂いたが、中々手は挙がらなかった事から結構知っている方は多いのではないかと思う。また、同じメンバーで活動が続けてきたというのは少し違うと思う。会員はずっと増え続けていて、今年度も新しいメンバーが女性2名、男性2名が入会され、男性の方は継続的に参加している。そこが問題で、入ったけれど会がつまらなかったのか、ただ、年度末になると忙しいから来なくなるのはよく分かる。でも、また4月から来るのかなというのもある。従って、同じメンバーだけで会員が増えてないような感じがするが、実は増えていて、今までの人が来なくなっているという事が挙げられると思う。

これは、字別意見交換会でも話したのだが、今後継続していくためには、卒業生をどうするか考えていかないといけない。三役は立ち上げ時から同じメンバーである。私たちが立ち上げた時に、以前の地主会の事務局長から、他力本願ではいけないだろう、これからは地権者も主体的に考えていかないといけない、と言われた。若手の会の中で少し他力本願的なところがあるのかなと少し感じる。それは、三役が動かないと誰か代行で動いてくれるのかという部分である。しかし、成果としては、昨年度も今年度も字別意見交換会でちゃんと役割分担をして皆報告を行っている。課題としては、課題が何なのか、しっかりみえてない、ぼやけている部分があると思う。

宮 城
(若 手 の 会)

新しく入った男性の方は結構参加している。ただ、字別意見交換会は仕事の関係で参加していなかったが、若干のメンバーの入替えはあると感じている。

又 吉
(地主会会長)

5 回の字別意見交換会を通して感じた事は、参加した地主会会員が変わってきている。去年、一昨年前までは大体同じメンバーが参加していたが、今回は全会場で女性が約6割を占めていた。組織の三役が上手く機能しないと組織自体機能しなくなる。役員改変についても一気変えるのではなく、一人は何年に1回や任期などを定めていればある程度自動的に3役入替が起こる、そういう規定がなければ、3役が若い人材を推薦していくというやり方もある。

富 川
(若手の会)

若手の会への課題という事で、皆さん個人的に印象が違うと思うため、私の個人的な意見を述べてから皆さんの意見を伺いたいと思う。

私は若手の会に参加して5年目になる。若手の会で様々な課題を話し合う機会もあるのが、改めて活字にされると気づかされる事があった。

現在、会員数46名のうち定例会参加者は約10名程度である。

5年目だが、顔見知りなのは15~16名である。ほぼ同一メンバーで活動しているのは合っている。おそらくその15名が、入れ替わり立ち代わりし定例会に参加していると思う。

先程どなたかがおっしゃったが、多ければ良いという問題でもなく、少なくとも困るのだが、増やす事にこだわり過ぎているのではないかと思う。問題点としては、46名中実際に活動するのは10名程度で、何のために増やしたいのか。新規メンバーが増えても、なぜ同程度の人数しか活動に参加しないのか。また、その事について何も話し合わない事にも問題がある。

もう1つは、新旧メンバーの知識格差をどう解消していくかという点については、ある意味そうは思っていない。

昨年から参加した若い男性女性含めて4~5名は定例会によく参加し意見も言う。非常に前向きで基礎的な部分は高いと私は見ている。それを考えた時に、新旧メンバーの知識格差があるのかどうか疑問である。そうではなく、一体どれくらい定例会に足を運んで何回皆と一緒に勉強したのかという事の差が知識の差だと私はみている。その辺も話さないまま、議論しないままに新旧メンバーの知識格差というのは最近入った人たちに失礼であると思う。私が間違っていると思う人もいるだろうが、それを考えて皆さんの意見を聞かせてほしい。

又 吉
(地主会会長)

知識の格差というのは、人間なのでそれは当然あっていいと思う。やはりいかにして、その目的に一所懸命な姿勢で参加しているかどうか、それに限ると思う。それは同一方向に向かう同じ考え方で一生懸命教育してみるという事が一番大事であって、その辺はこだわる必要はないと思う。

上 江 洲
(沖縄国際大学准教授)

この悩みはずっとつきなくて、それぞれ見ている視点が違うのだなというのが聞いていて感じた。資料に沿って話していくと、参加人数を増やせばいいかという問題があるが、活性化として新しい風を入れたいという背景が感じられる。それは、勧誘活動をする際に、既に会は認知されているはずなので、地区ごとなのか

テーマごとなのかという事になるかと思う。興味あるもの（テーマ）を提示すると参加する人がいるのか、あるいは自分の親しみある字別地区だと地区の人も参加するから参加するという人がある。いわゆる授業参観ではないが会議に対して少し見学頂き、こちらから出向いてみたい活動など、もし本当に勧誘活動をするというのであれば、周知活動というより会を見てもらうという事を行ってはどうかと思う。

そういったものが一つと、やはり熱意によって変わらと思うので、参加率によっても変わらと思う。

組織をもう少し強固なものにするという考えの場合、組織として確立するための会則を定めてというのが先になるかもしれないが、そうすると会というのがあまり組織的になるのも私も好きではない。しかし、せめて新規の会員が入るときには、会社に入るときに研修があるように、とりあえず基礎的な知識を与える機会を作る。教える方も実際に若手の会の方が行う事が第一で、基本的に学生でも同じ手法を使っていて、私のゼミでは四年生が三年生を面倒見ると決めている。そうすると一番初めに何を行うかという、必要最低限の知識を最初に与えておく方がいいと思う。何も言わなくても最初にそれを行う。多分、知識の格差というものよりも経験の差とか会の参加率に比例していくが、最初関心を持ってこれまで何をやってきたのかを知り、歴史的なこういう事に自分たちの意見が反映されたよという事まで知ると何となく会について出みようかなと思うかもしれないと聞いていて感じた。以上。

石 原
（沖縄国際大学
名誉教授）

若手の会の財産の一つは、先進地視察を実施してきた事だと考えている。先進地視察会で得た知識を共有財産にしていき、それを伝えていく、それが説得力を持つのではないかと思う。まずそれを共有化して伝えていくという事も大事だと思う。

丸 山
（専門員）

新しい方は経験されてない事もあるので。

石 原
（沖縄国際大学
名誉教授）

同じメンバーでもその時の都合で行けなかった人達もいる。それはやっぱり共有が必要かと思う。

丸 山
（専門員）

若手の会もNBミーティングも議論をする会、何かを決定する会ではないので、先程から人数の話しが出ているが、やっぱりみんなが発言していかないと議論にならない。決定を行う会だと、賛成とか反対で、100人いてもいいと思うが、やはりこの会は議論して意見交換を活発に行い、ベターな方向に行く事がベストかと、これが良いとか悪いではなくて、そうすると10数名が多分時間的な制約の中で限界かなと思う。そうするとその中で新しい風を入れるためには、やはりグループが複数必要なのかと思う。知識の格差というよりは、上江洲先生からの発言にもあった、興味のあるテーマなのか取組みなのか、そこは必要になるかと思う。

これから拡大というのと、組織の在り方の方向性、その中で３役の方がいらっしゃる、その方がグループで分かれるのか、あるいは一気に引退宣言をするのか。私は県外の人間なので、沖縄は上下関係が厳しくて、なかなか上の方がいると下は突き抜けられない。やりたくても遠慮するというのは、ヒシヒシと感じている風もあるので、そこは上の方が気を使ってあげないと、なかなか下から物を自由に難しいと思うので、そういった事も含めて考えられると良いと思う。

佐藤
(NBミーティング
副会長)

NBミーティングも含めてなんだが、引いていくキッカケはなにか考えていたのだが、疎外感と孤立感である。何がキッカケになるかというと、「それ去年行った」「それ先週議論した」といわれるとすごく引く。それが無い方法を考えると、完結型になる。毎回完結になる。それから次回のテーマはこれである、興味ない人は来なくていい、興味あったらぜひ来てくださいというように、引かないようにする。知識の格差については、それは情報の格差だと思う、情報の格差はその深度によって違う事は当然である。だけど、全く新しい人でも、自分に興味のあるものだったら来たい、引かない雰囲気を作る。それはNBミーティングとしても重要だと思う。

丸山
(専門員)

色々意見を頂いたのだが、若手の会の方はまだまだ議論の必要があるかと思うが、それは次回の懇話会でも引き続きテーブルに置いて、意見を頂きたいというのと、今日も少し出たので、若手の会の定例会でももう少し深化した会話をしていただいで、またこういう場に出して頂いてほしいなと思う。

(5)「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」設置要綱

(設置)

第1条 普天間飛行場跡地利用に係る地権者等関係者の合意形成活動を確実に実施するために、地権者等関係者のそれぞれの活動内容及び方向性について十分な協議調整を図ることに資するために、普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会(以下「懇話会」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 懇話会での協議事項は、次のとおりとする。

- (1) 合意形成活動推進上の問題課題の整理に関すること。
- (2) 合意形成活動の仕組みと組織づくりに関すること。
- (3) まちづくり手法の研究に関すること。

(組織)

第3条 懇話会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 宜野湾市軍用地等地主会
- (3) 普天間飛行場の跡地を考える若手の会
- (4) ねたてのまちベースミーティング
- (5) 市の職員
- (6) 専門員(まちづくり実務者)

(任期)

第4条 会員の任期は、3年とする。ただし、再任は妨げない。

(役員)

第5条 懇話会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名
- 2 役員は、会員の互選により定める。
- 3 役員の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 会長は、懇話会の会務を総括する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 懇話会の会議は、会長が必要に応じて召集する。

- 2 団体会員の会議への出席者数は、議題に応じ必要人数とする。
- 3 会長が必要であると認めるときは、会員以外の関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(事務局)

第7条 懇話会の事務局は、宜野湾市基地政策部まち未来課に置き、その事務を処理する。

(補則)

第8条 前条までに規定するものの他、懇話会の運営に関して必要な事項は懇話会で決定する。

附則

この会則は平成27年1月27日から施行する。